

新進芸術家海外研修制度 研修結果報告書

研修開始年度 | 令和 3 (2021) 年度

分野 | 演劇 (俳優 (ミュージカル))

研修先 | アメリカ (ニューヨーク)

研修期間 | 1 年研修

氏名 | 高野 菜々

1. 研修目的（課題）

オリジナルの表現を追求したい。演技や歌のメソッドの、その基礎力の上にある、ワンアンドオンリーな表現とは何か、オリジナルミュージカルを生み出し続けているニューヨークで、心から尊敬する大女優ロレーヌ・セラビアン氏の生き様を間近で感じ、その経験から生み出した彼女の表現の真髓を学ぶ。そして、今後私の人生の全てをかけた作品と言える、圧倒的なオリジナルミュージカルを創るため、確固たる表現の軸を持ちたい。

2. 研修日程

研修先 : ロレーヌ・セラビアン

所在地 : アメリカ（ニューヨーク）

指導者 : ロレーヌ・セラビアン

研修期間 : 令和4(2022)年3月21日～令和5(2023)年3月5日

3. 研修内容、成果

A) 研修課題の題目

【課題】

「過去に誰もやっていない、あなただけのオリジナルの表現は何？」

今回の研修に応募するきっかけになった、あるニューヨーク在住のアーティストに言われた言葉だ。私は今回の研修を「私だけのオリジナルの表現」を見つける時間とした。

結果、私はこの答えに辿り着くことができたと確信している。

【研修内容・方法】

成果を出すにあたり、研修期間を4つのタームに分け、始動期・成長期・発展期・成熟期として研修を行なってきた。

B) 研修の成果

大幅に達成できた

基礎強化のためのレッスンの受講や知識の深化や感性を鍛えるためのインプット作業に重点を置いた始動期。その後、基礎の上の“表現の軸”を作った成長期。実践練習によるトライアウトの場を数多く設け、自分自身の表現の根底部分に迫り、確固たる軸を確立させた発展期。最後の成熟期では、海外から俯瞰し

て自国のオリジナリティ（特長）を肌で感じ、自分自身のオリジナルの表現を深めながら、日本のオリジナルミュージカルを創作する上での表現手法や演出方法などを持ち帰る時間とした。

始動期では、主に受け入れ先の指導者であるロレーヌ・セラビアン氏の元で歌唱演技法についてご指導いただきながら、ジャズ唱法・ミュージカル唱法などの歌唱レッスン、クラシックバレエやタップダンスなどのダンスレッスンなど様々なクラスを受講した。

これまで私は、アメリカ演劇における“表現”は、日本演劇よりも過度にアウトプットするものだと考えていたが、ロレーヌ氏から「Don't Play（演じないで）」と何度も指摘されたことや、ロレーヌ氏が見せてくださったお手本から、プライベート空間に存在する“リアリティ”を肌で学ぶことができた。リアリティのある表現に迫るには「出す（プッシュする）」のではなく、沸き起こった思いを打ち消したい・隠したいなどの「障害（反作用）」が人の感情にあるからこそ、リアルな表現が生まれるのだと学んだ。また、言葉の壁は演技において心のキャッチボールを妨げると考え、英語の発音矯正にも力を入れた。発音を気にしているうちの演技は“表現”ではなく、ただの言葉になるため、ロレーヌ氏から「その言葉を発する時に沸き起こる心の動きやイメージ」に着目することを教わり、改めて、言語は重要だが非言語の重要性を改めて認識することができた。タームの終わりにはロレーヌ氏や他のシーンを演じた学生からは、短期間での成長に対する大きな評価をいただいた。

また、今回ブロードウェイミュージカルの中でも大きく感銘を受けたブロードウェイミュージカル「MJ」にも出会うことができた。出演者のスキルの高さはもちろんのこと「隙の無さ」に驚いた。芸術は「観客が想像できる余白があること（未完成であること）」が重要だと私は考えるが、この「MJ」は、ストーリー・歌・ダンス・演技・照明など全てにおいて完璧さゆえの圧倒を感じさせる作品であり、「隙の無さ」も観客を別世界へと誘う重要な鍵であることを知った。また、そのクオリティーの高さを毎公演維持して実践している俳優へのリスペクトで胸がいっぱいになった。

成長期では、指導者からの推薦でブラット・ピットやハル・ベリー、シルベスター・スタローンなど数多くのアカデミー賞受賞俳優を育ててきた、イヴァナ・チャバック氏に師事し、1ヶ月半ロサンゼルスにてチャバック・テクニクの体得とシーンワークに励んだ。

その中で、これまで無意識に押さえつけていた根本的な「我欲」を思い出すことができた。チャバック・テクニクは自分自身の過去の痛みやトラウマを演技に結びつけるテクニクなのだが、イヴァナ氏から「実生活の中での人間関係に疑問を持たず“全てが上手くいっている”と思うのならば、アーティストをやめなさい。アーティストは自分の持っているものを全て材料にする必要がある。身の回りに起きた小さな出来事でさえイメージで膨らませたり、向き合いたくない自分自身のダークな内面も見なくてはならない」と、今後の表現者としてのテーマとなるようなお言葉をいただいた。

またイヴァナ氏からの“脚本を喜ばせようとしなさい”という言葉は、今まで自分自身が抱えていた表

現の課題を解決してくれる最大のプレゼントだった。作品を良くするため脚本に書かれたシナリオ通りに演じなければならないとこれまで思っていたが、それはセカンドチョイスであり、相手を喜ばせようとするチャリティーになってしまう。イヴァナ氏から「マザー・テレサでさえ、亡くなる直前に“私の名前を覚えておいて”と言ったほど、誰かのために行っているように見える行動も自分の気持ちを良くするものであることを忘れないで」と言われ、目から鱗だった。

発展期は、アウトプットの機会を多く設けた。ブロードウェイ俳優たちが出演するブロードウェイセッションズに合格し出演した経験は自信となり、残りの研修期間で挑戦したい学びの方向性を見つけることができた。

また、アメリカ演劇とイギリス演劇を学ぶべく、ロンドンにも足を運び、たくさんのイギリス演劇を鑑賞した。私自身の研修テーマである「オリジナル」について学ぶために、原作が日本作品である「となりのトトロ」をロイヤルシェイクスピアカンパニーがロンドンで上演するに至るまでの経緯や、創作過程について出演者やクリエイティブスタッフにインタビューをさせていただいた。

上記の鑑賞やインタビューから学んだことは、イギリスでは「作品」を第一と捉え、作品の作り方や俳優の在り方全てにおいて「脚本」が重視される傾向にあると感じ、反対にアメリカでは「俳優」を第一と捉え、俳優のスキルが注目される演出が好まれると学んだ。これは両国の芸術の一面に過ぎず、それとは異なるものが両国にもあると思うが、イギリスで生まれた舞台作品とアメリカで生まれた舞台作品には大きな違いがあると私は感じた。また、イギリス作品には歴史から来る刹那的な思考と奥深さを脚本や演出から感じ、今後創りたいと思うような作品にも多数出会えた。

そして、帰国前の成熟期では、ニューヨークでソロコンサートを開催することができた。

このことが、今回の研修目的である「オリジナルの表現」を見つける上での最大のきっかけとなった。

私はこれまで、「オリジナルの表現」は後発的に身につけるものだと考えていた。

そのためニューヨークでも様々なレッスンを受講してきたが、最終的にソロコンサートを開催するにあたって、「日本人である私がニューヨークで何を伝えたいか」という問いに対して徹底的に向き合えたのは大きな経験だった。ニューヨークで学んだことや身につけたものを披露する「発表会」にはしたくないと考え、自分自身から生み出るもので勝負したいと思ったからだ。振り返ってみて思うのは、そのことこそが私だけのオリジナルだった。

私は広島市の出身であるが、ニューヨークで「広島出身」と他国の方に自己紹介した際、ヒロシマを知らない人は誰一人としていなかった。「あなたの故郷の悲しい出来事を知っています」とみんな心を寄せてくれることにも驚いた。

また、15年前、日本でオリジナルミュージカルを創り続けている音楽座ミュージカルに入団した後、戦争が題材の作品「21C：マドモアゼル・モーツァルト」に主演した。その際に、カンパニーの代表に「あ

なたは広島に生まれた意味を考えたことはある？」と聞かれたことがあった。これまで意味など考えたことはなく、ましてや意味などないかもしれない。しかし、その質問がきっかけで故郷の歴史を自身のミッションとして捉えるようになっていった。

今回のコンサートのテーマを考える中で、私にしか生み出せないオリジナルを深く考えていき最終的に「自分自身のルーツ」に答えがあるのではないかと辿り着いた。

私は広島に生まれて、東京でオリジナルミュージカルを創作するカンパニーに在籍し、平和を願う作品に出演してきた。そしてニューヨークで表現したいことは「広島に生まれた意味を世界へ届けること」だった。

ソロコンサートは大盛況で満員御礼のソールドアウトとなり、さまざまなメディアでも取り上げていただいた。「これまでも、いろいろな日本人の演奏を聴きに来ているが、これほど素晴らしく観客を惹きつける構成や表現などを含めたトータルパフォーマンスを観たのは初めてだった」（「Newsweek」より抜粋）など、嬉しい感想をいただいた。

また、進行や歌唱は英語で行ったのだが、2曲のみ日本語で披露したものがあつた。1曲は、音楽座ミュージカルの旗揚げ作品である「シャボン玉とんだ宇宙（ソラ）までとんだ」から『ドリーム』、そしてもう1曲は、広島原爆投下について描かれた『一本の鉛筆』を日本語で歌ったのだが、観客から“日本の言葉は分からなくとも、祈る想いを受け取った”と感想をいただいた。

これは私がミッションとして考えている「平和」への一歩だと考える。音楽や想いは、国を超えて繋がるのだと感動した。

オリジナルとは、“自分が歩んできた道である”と、今回の1年間の研修で学んだ。

ニューヨークで「故郷への想いを背負ってオリジナルミュージカルを世界に発信していきたい」と自分の言葉として語れたからこそ、今後のミッションとしての責任を感じた。表現者として、そして人生を通して、平和につながる道を創る一人として生きていきたい。

C) 研修成果の活用計画

2023年は、6月に音楽座ミュージカル「泣かないで」スール山形役、9・10月ミュージカル「生きる」ヒロイン・小田切とよ役、10～12月「シャボン玉とんだ宇宙（ソラ）までとんだ」折口佳代役（主演）での出演を控えている。

すべての作品が日本オリジナル作品であることから、私自身がニューヨークで得た学びを最大限に活かせる場だと考えている。

D) 研修国の情報

2022 年はニューヨークでの新型コロナウイルスの影響は少なかったものの、1 ドル 150 円にもなり、研修はもちろんのこと、生活すること自体が大変厳しい状況でした。アメリカ・ニューヨークの物価も上がり、市民の貧富の差も激しかったことから、パンデミック前よりも治安はかなり悪い状況でした。今後できるならば、その年々に合った予算組みと、柔軟な対応をいただければ幸いです。

音楽座ミュージカル
『泣かないで』チラス
スール山形役として出演 ©ヒューマンデザイン

東京
大阪
名古屋

ホームタウン公演
町田市民ホール
6/9(金)・10(土)・11(日)
18:30 13:00 13:00
18:00

大阪公演
オリックス劇場
6/13(火) 18:00

名古屋公演
日本特殊陶業市民会館
ビレッジホール
6/21(水) 18:00

2023年6月公演
音楽座ミュージカル『泣かないで』チラス
スール山形役として出演 ©ヒューマンデザイン

Daiwa House
presents
ミュージカル
生きる
I KIRU

市村正親 鹿賀丈史

村井良大 平方元基/上原理生 高野葉々 実咲凜音 福井晶一 鶴見辰吾

2023年9月7日(木)~24日(日) 新国立劇場 中劇場

2023年9・10月公演 ミュージカル『生きる』チラス
ヒロイン・小田切とよ役として出演

音楽座ミュージカル
『シャボン玉とんだ宇宙までとんだ』チラス
主演・折口佳代役として出演 ©ヒューマンデザイン

あの日、初演
今、甦る
『シャボン玉とんだ』

大阪公演
吹田市文化会館
メインアター 大ホール
10/3

東京公演
草月ホール
10/27~11/5

広島公演
JMSアステールプラザ
大ホール
12/8~9

2023年10~12月 音楽座ミュージカル
『シャボン玉とんだ宇宙(ソラ)までとんだ』チラス
主演・折口佳代役として出演
©ヒューマンデザイン

NANA KONO
 Live Concert in **NEW YORK "Brilliant"**
Fri. Feb.17th
 Show starts **7:00 pm**
 Doors open 6:15 pm
\$15 Cover
 CASH ONLY, \$20 Minimum (must include 2 drinks)
 Food Menu Available

QR code for ticket information.

don't tell mama
 343 West 46th St, New York, NY 10036

音楽座

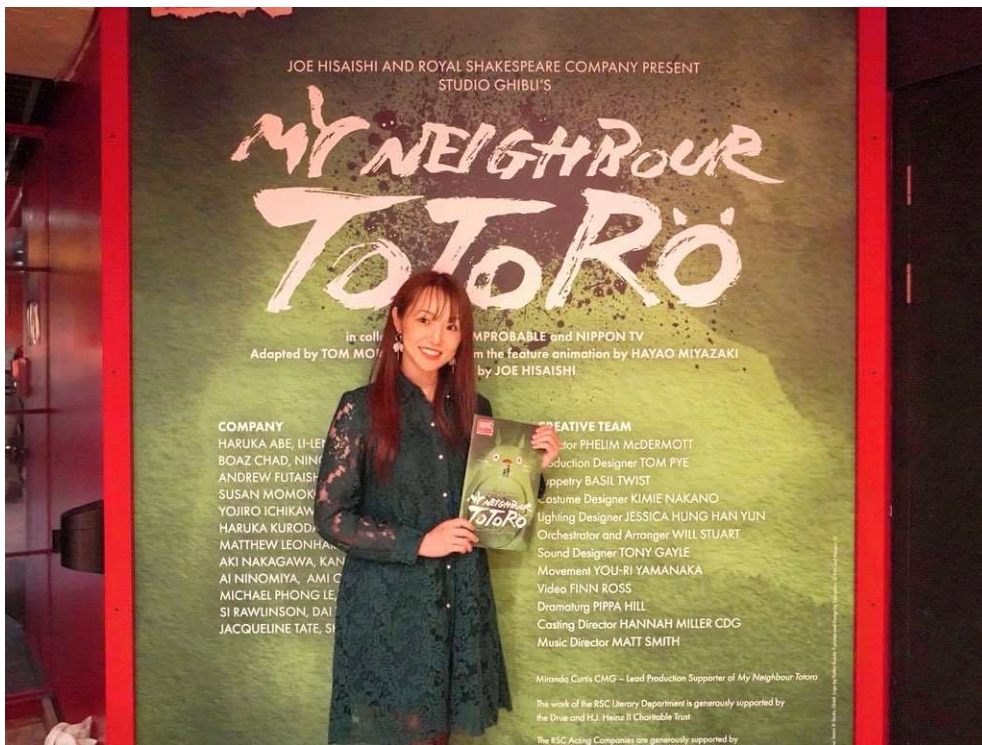
高野菜々コンサート in NEW YORK 『ブリリアント』 チラシ
 ©ヒューマンデザイン



高野菜々コンサート in NEW YORK 『ブリリアント』の様子 (ライブハウス「ドント・テル・ママ」にて)
 ©ヒューマンデザイン 撮影: Rebecca J Michelson



イヴァナ・チャバックのアクティングスタジオ前にて（アメリカ・ロサンゼルス）



ロイヤルシェイクスピアカンパニーの『となりのトトロ』等を鑑賞（イギリス・ロンドン）